第 21 回経済協力セミナー
これからの時代における国連と市民社会の役割～人間の安全保障の観点から～
講演者：田瀬 和夫氏　United Nations, Islamabad, Pakistan
Director, United Nations Information Centres
文責：永井哲平

今回の講演では人間の安全保障に関しての大まかな説明がなされた後、パキスタンにおける女性差別問題の VTR を見て、具体的な改善案、解決策を講義の聴講者が立案するという形でのワークショップが行われた。

<人間の安全保障>

人間の安全保障(Human Security)という概念は 1994 年、国連開発計画(UNDP)によってはじめて使われたものである。この概念の確立に寄与した、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の緒方貞子氏によると、人間の安全保障とは、既存の国際社会の制度とは別に、国際協力の現場の視点から各問題がどのように繋がっているかを考え、最終的には、そのような現場からのボトムアップの解決策を生み出すというものである。これは、湾岸戦争での国内避難民の発生において実践が見られた。国際協力の現場で支援を受ける人たちにとっては、支援団体や受けている支援が人道支援なのか開発支援であるのかといったような区別はあまり関係がない。また、Human Security では、短期的もしくは長期的に現場の人々が安心感を得ることがもっとも重要視されている。そして、人間が安心感を得るには自分たちで将来を作り上げていくことが必要であり、このため支援を国際機関ではエンパワーメントと呼んでいる。

その場で見た、聞いたものに対して、何を感じ、何を思い、考え、では一体どうしたらいいのか、何が必要なのかを言葉にする、まさに聴講者参加型であった。講演中では、学生たちに対して、コミュニティは同じような悲劇を生み出さないためにどうするべきなのか、宗教という文脈だけで問題を考えていいのか、ジェンダー問題をなくすにはどうするべきか、人間の安全保障とは何なのか、という問いがなされた。学生たちにはいかなる立場にも自らを置き、この問題に対するアプローチ行うことを求められた。